

次世代ネットワークの接続料算定等に関する研究会(第9回) 議事要旨

1. 日 時：平成20年12月19日(金) 10:00～11:00

2. 場 所：総務省低層棟1階 共用第4会議室

3. 参加者

(1) 構成員

：東海座長、酒井座長代理、関口構成員、手塚構成員

(2) 総務省

：桜井総合通信基盤局長、武内電気通信事業部長
古市料金サービス課長、村松料金サービス課企画官、
飯村料金サービス課課長補佐、岡本同課長補佐

4. 議題

(1) 研究会報告書案について

5. 議事要旨

<報告>

○ 事務局より、報告書案を用いて説明。

<質疑応答>

○ 質疑応答における主な発言は以下のとおり。

- ・ 2010年度以降のドライバについて、考え方19では「更に検討を深めることが必要」としているが、考え方31では「ポート容量比は2009年度限り、2010年度はアクティビティを考慮するドライバを用いて算定」とあり、言い回しが微妙に違う。
- ・ (事務局)表現ぶりを統一する。
- ・ コストベースは前提だが、利用動向を踏まえて負担することが適切。最初は実績が揃わないので、暫定的にポート容量比をドライバとするが、その後実績が出てくれば色々な形の検討がありうる。考え方31の、2009年度接続料に限り認める、という点は書きぶりを改めてはどうか。
- ・ (事務局)ご指摘を踏まえ修正する。
- ・ 考え方20で、認可申請の際に、他事業者の検証容易性に留意するとあり、考え方26で、認可申請の際、帯域等換算係数の考え方について検証するとあるが、実際の認可申請の際に、総務省として積極的に検証の対象にするということか。
- ・ (事務局)接続料の認可申請がなされる際に、コスト算定の適正性をチェックするので、その際に帯域等換算係数の考え方もチェックすることになる。

- ・ 実際の運用として、申請があった際に、審議会場で判断を行うことになる。
- ・ 申請の際に数字が出てきて、それを検証するということで、まずは申請待ちの報告書と捉えている。NGNは商用サービスがスタートしたばかりなので、審議会場で審議していく中で、帯域換算係数の適切性についても、検討を深めていくのだろう。
- ・ 考え方37、「不当に高額な接続料」の、何が不当かの判断基準は難しいテーマ。今後、考え方をどこかで検討されるのか。
- ・ (事務局)現時点で具体的な場は想定されていないが、報告書案にも課題が示されているので、まずはその点について検討を深めていくことが必要と考えている。
- ・ 意見43の、中小規模の事業者の懸念はどういった内容か。
- ・ (事務局)バルク型は、サービスを多く利用する場合に安くなる料金体系なので、あまり利用しない中小事業者にコストがよることになる点。
- ・ 考え方47、ネットワーク構成の適切性の検証までは必要ない、という言い方は、少し言い過ぎではないか。
- ・ (事務局)修正する。
- ・ 考え方についての修正点については、本質的なものではないので、報告書の趣旨に沿った形に改めることとしたい。

(以 上)